

会議議事摘録

会議名	平成 28 年度第 2 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 28 年 11 月 20 日 (土曜日) 14 : 00 ~ 16 : 30 (2.5h)
場所	本校 8 階視聴覚教室
出席者 (敬称略)	<p>①委員：岩間みどり(保護者)、佐藤文雄(高等学校関係者)、野間 弘(卒業生)、藤井昌弘(医療事務関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者) (計 5 名)</p> <p>②学校：橋本正樹 (校長)、藤野 裕 (参与)、宮下明久 (事務局長)、前田律子 (看護科担当副校長兼学科長)、小田真理子 (速記コンピュータ科学科長)、石川幹夫 (医療秘書科学科長)、村山由美 (医療秘書科副学科長)、黒田 潔 (医療マネジメント科学科長)、中村博臣 (くすり・調剤事務科学科長)、岩上由紀子 (介護福祉科学科長)、宮嶋貴与 (鍼灸医療科学科長)、三宅かおり (教務委員長) (計 13 名)</p> <p>③事務局：手塚理恵子、高橋 稔 (計 2 名) (参加者合計 20 名)</p>
欠席者	宮武正秀委員(福祉関連業界関係者)
配付資料	<p>①事前送付：</p> <p>□資料 1：平成 28 年度第 1 回学校関係者評価委員会議事録、□資料 2：平成 27 年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組状況報告 (中間点検)、□資料 3：平成 28 年度重点目標の中間点検報告、□資料 4：平成 28 年度教員研修計画・実績、□資料 5：平成 28 年度学校関係者評価報告書案 (検討用)</p> <p>②本日配付：</p> <p>□資料 6：平成 28 年度学校関係者評価報告書様式、□資料 7：平成 28 年度第 1 回委員会以降の主な経過報告 (別添 A：平成 28 年度退学状況、別添 B：平成 28 年度進路決定状況、別添 C：平成 28 年度学生相談コーナー前期報告、別添 D：平成 28 年度前期授業アンケート集計結果、別添 E：平成 28 年度学校生活に関する調査・挨拶に関するアンケート用紙、別添 F：平成 28 年度授業公開実施報告、別添 G：平成 28 年度入学生の基礎学力調査報告、別添 H：平成 29 年度学生募集状況)</p>
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>橋本校長より、本年度は業務改善を 1 つの大きなテーマとして運営してきた。その中で、平成 30 年度の 18 歳人口減少に向けた学科体制として、平成 29 年度に開設予定の医師事務技術専攻科の準備と、平成 30 年度になるが、一年制の新速記者養成の学科を業界と連携のもとに立ち上げる準備をしている。</p> <p>介護福祉科については、職業実践専門課程の申請を 8 月の末に行った。さらに、外国人材の受け入れを見据え、介護の中での管理的な人材養成についても考えていきたい。</p> <p>来年度の募集については、全般的によい声は聞かないが、本校は昨年よりはよい数字が出ている。業務改善という点では、募集項目協議会を立ち上げて業務改善に取り組んでいる成果が徐々に出てきているものと思う。</p> <p>本日は今年度の中間報告の確認と学校関係者評価報告書のまとめをお願いするが、委員の皆様には引き続き本校のサポーターとしての貴重なご意見を賜りたいとの挨拶が行</p>

われた。

2. 前回委員会議事録の確認（説明者：事務局高橋）

事務局より本委員会の議事録の作成方法について説明が行われた後、保坂委員長より、前回議事録（資料1）について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。

3. 経過報告（説明者：石川学科長、宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局高橋）

平成28年度第1回委員会以降の主な経過について、各担当より資料4及び資料7に基づき報告が行われ、確認、了承された。なお、委員より共通学力テストについて質問と意見があり、担当より説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

4. 平成27年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組状況報告について（説明者：事務局高橋）

事務局より資料2の構成及び表中の「※3中間点検の記述経過について説明が行われた後、項目順に質疑応答が行われ、確認、了承された。なお、委員より以下について質問と意見があり、担当よりそれぞれ説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

- ①退学者対応について
- ②授業公開について
- ③学生募集について
- ④看護科のclass hourについて
- ⑤CSCの目標関連について
- ⑥検定取得目標数値について
- ⑦防災活動における近隣との連携について
- ⑧介護福祉科の保護者会について

5. 平成28年度重点目標の中間点検報告について（説明者：橋本校長）

橋本校長より、資料3に基づき今年度の3つの重点目標（①TPCの育成と強化、②退学防止、③教員研修）について説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 平成28年度学校関係者評価報告案について（説明者：事務局高橋）

保坂委員長より、前回委員会において質疑をいただいた、平成27年度活動の自己評価報告に対する本委員会の意見を、平成28年度学校関係者評価報告案（資料5）としてまとめたので、重点目標、各評価項目の順に質疑をお願いするとの説明があり、資料5の構成について事務局より説明の後、評価項目毎に検討を行った。

審議の結果、報告文書の最終的な整理とまとめは保坂委員長に一任して、平成28年度学校関係者評価報告が確認、了承された。詳細は、別紙のとおり。

なお、各委員の総評について委員長の氏名順に発言をお願いした。詳細は、別紙のとおり。

7. 次回日程、その他（説明者：事務局高橋）

事務局より、各委員の日程確認が行われた結果、第3回委員会は3月18日（土）14:00～16:00に開催を仮決定とした。次回テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

- ・平成27年度学校関係者評価報告に示された課題への取り組み年度末報告
- ・平成28年度重点目標の年度末点検報告

最後に、保坂委員長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼があり、閉会した。

以上

平成 28 年度第 2 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

3. 経過報告

○平成 28 年度第 1 回委員会以降の経過について石川学科長、宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局高橋より資料 4 及び資料 7（別添 A～H）に基づき、以下の報告が行われた。

1. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

・平成 28 年度の重点目標として年間の退学率 3.5%以下を設定して退学防止に取り組んでいる（別添 A）

(2) 就職活動の状況

・各学科の学科運営計画に内定目標数値を明記して取り組んでいる。（別添 B）

(3) 学生相談コーナーの利用、相談状況

・前期の授業期間中、週 1 日、延べ 15 日開設、2 名の相談員が交代で対応（別添 C）

2. アンケート関連

(1) 平成28年度の実施状況

	前期授業アンケート	後期授業アンケート	学校生活に関する調査
実施期間	・ 6 / 27 (月) ~ 7 / 1 (金)	・ 12 / 12 (月) ~ 17 (金) ※看護科 2 年生は 12 / 19 (月) ~ 22 (木)	・ 12 / 12 (月) ~ 22 (木)
対象	・ 全学科	・ 全学科	・ 全学科
実施計画	・ 平成 28 年度前期授業アンケート実施計画、実施手順 ・ 看護科は実施手順を一部変更して実施 ・ 質問項目は平成 26 年度改訂版	・ 平成 28 年度後期授業アンケート実施計画、実施手順 ・ 看護科は実施手順を一部変更して実施 ・ 質問項目は平成 26 年度改訂版	・ 平成 28 年度学校生活に関する調査実施計画、実施手順 ・ インターンシップ 専攻生は春休みの登校日に実施 ・ 質問項目は平成 26 年度改訂版（別添 E）
実施科目	・ 前期科目及び通年科目 ・ 332 科目 7,804 回答	・ 後期科目番号を 11 / 25 (金) までに各学科で確認	・ 挨拶に関するアンケートを合わせて実施
報告	・ 8 / 29 ~ 科目担当者に手渡し ・ 別添 D	・ 平成 29 年 3 月 ~ 科目担当者に手渡し、郵送	・ 平成 29 年 4 月担任会、科会
公表	・ 内部：11 / 1 ~ ・ 外部：平成 29 年 5 月 ~	・ 内部：平成 29 年 10 月 ~	・ 内部：平成 29 年 10 月 ~

3. 教務委員会関連

(1) 平成 28 年度実施計画・実績（資料 4）

- ・ 専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するために実施する研修
- ・ 授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するために実施する研修

(2) 平成 28 年度授業公開（別添 I）

・ 今年度より教務委員会が担当、実施期間は 10 月 11 日（火）～24 日（月）の 2 週間

(3) 平成 28 年度入学生の共通基礎学力テスト結果（別添 I）

4. 学生募集関連

(1) 入学試験及び出願状況（別添F）

	看護科を除く学科	看護科
既実施	10/15(土)、11/12(土) 特待生、推薦、ワカ [®] 奨学生、AO、外国人、一般	10/30(日)指定校・公募推薦
今後の日程	11/26(土)、12/17(土)、1/21(土)、2/18(土)、3/11(土) 3/25(土)	社会人・キャリア 11/26(土) 一般Ⅰ期 11/26(土)、12/10(土) 一般Ⅱ期 2/4(土)、2/11(月) 一般、外国人

5. 職業実践専門課程関連

(1) 教育課程編成委員会の開催

	医療事務分野教育課程編成委員会	福祉分野教育課程編成委員会
対象学科	医療秘書科、医療マネジメント科	介護福祉科
第1回	7/25(月)	7/21(木)
主なテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 委員会における意見、提案への取組（活用）報告 平成28年度学科運営計画と平成29年度カリキュラム編成 医師事務技術専攻科の準備他 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会における意見、提案への取組（活用）報告 平成28年度学科運営計画と平成29年度カリキュラム編成 職業実践専門課程の平成28年度認定申請に向けた取組他
第2回	平成29年2/16(木)	平成29年2/27(月)
主なテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 委員会における意見、提案への取組（活用）報告 平成28年教育活動、学科運営と平成29年度カリキュラム編成報告 医師事務技術専攻科の開設 平成29年教育活動、学科運営への取組他 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会における意見、提案への取組（活用）報告 平成28年教育活動、学科運営と平成29年度カリキュラム編成報告 国家試験対策、職業実践専門課程認定後の取組 平成29年教育活動、学科運営への取組他

(2) 介護福祉科の職業実践専門課程認定申請

- ・ 8/26(金) 豊島区に認定申請書類提出
- ・ 10/5(水)、20(木) 豊島区からの指摘により申請書類の訂正、差替え
- ・ 10/31 都から文部科学省へ推薦
- ・ 11/30(水) までに後期実施の第三段階実習の契約書と実習評価資料を豊島区に追加提出
- ・ 3月認定、官報公示の見込み

6. 平成28年度活動の自己点検・自己評価関連

(1) 活動の予定

日程	実施内容
2月下旬～ 3月中	①平成27年度学校関係者評価報告書からの意見・課題の年度末点検（各担当） ②平成28年度重点目標の年度末点検（校長）

	③部署、担当毎に該当する点検項目について 28 年度活動の自己点検・自己評価 ・使用基準：私立専門学校等評価研究機構「専門学校等評価基準書 ver4.0」
3 月下旬	<input type="checkbox"/> 平成 28 年度第 3 回学校関係者評価委員会へ①と②の点検結果報告 <input type="checkbox"/> 3 月点検委員会で③の全体まとめ、自己評価報告書の作成、参考資料確認
4 月下旬	<input type="checkbox"/> 4 月点検委員会で④28 年度活動の自己点検・自己評価報告書（点検大項目）まとめ <input type="checkbox"/> ⑤28 年度学校関係者評価報告書からの意見・課題の進め方確認
5 月下旬	<input type="checkbox"/> 5 月点検委員会で⑥29 年度重点目標の確認
6 月	<input type="checkbox"/> 平成 29 年度第 1 回学校関係者評価委員会へ④の報告、⑤⑥の説明

7. その他

(1) 学園祭（別添 G）

- ・準備日 12/1（木）、開催日 12/2（金）前夜祭、12/3（土）一般公開

○学生相談コーナーの利用、相談状況については、担当の石川学科長より以下の説明が行われた。

- ・前期は予定どおり 15 回開設した。カウンセラー 2 名が輪番で対応している。利用者数は、相談数が 17 名、延べで 41 名。相談内容は、人間関係に対する悩みが一番多かった。
- ・月別の相談件数を見ると、毎月何らかの相談がある。教員が学生対応についての助言をいただくケースもある。
- ・昨年は保健室の常駐教員がいなかったが、今年度は復活したことにより、教員と保健室と相談室のトライアングルの学生対応の効果が出ているという報告も出ている。

○教員研修については、三宅教務委員長より以下の説明が行われた。

- ・昨年 10 月末現在で 12 件、今年度が 32 件と、約 2.67 倍に増えている。その原因は、教職員の意識が高まったこと、看護科のプラス分、職業実践専門課程を目指している介護福祉科の受講数が大幅に増えていることなどがある。
- ・学内での教職員研修は、1 回目を 8 月末に、アクティブラーニングをテーマに実施した。2 回目は 2 月末ぐらいを想定して計画中である。

○授業公開については、三宅教務委員長より以下の説明が行われた。

- ・今年度は学校長を実施責任者として、教務委員会が直接管掌することで、学科を隔てないで横に広く浸透させることを目標にした。仕組みを簡素化し、授業公開要領を全教職員に周知徹底するとともに、期間を 1 週間から 2 週間に変更し、全学科一斉に行った。
- ・公開は非常勤教員にも呼びかけ（1 名参加）、参観者は事務職員にも任意でお願いしたところ、半分弱の事務職員の参加を得た。原則として全ての授業を公開対象とし、非公開にしたい場合は申請の上、教務委員会及び校長が審査する手続きを設けたほか、公開対象授業の一覧を学内メール及び掲示板で配信した。
- ・さらに、看護科以外の全教員に複数回の参観、学科長は全学科の授業を 1 つ以上は参観することを義務づけた。参観レポートと公開レポートの書式を簡単にし、自由に記述できる部分を増やした。
- ・中間総括としては、前年と比較して大幅に参観者が増加した（+21 名、224%）。一人当たりの参観数の平均は 2.8、参観しなかった者は 2 となり、昨年の 11 より大幅に減少した。
- ・来年に向けての課題は、非公開とする授業の取り扱いについて、今年度の審査制を踏まえた上で、何らかの基準を設ける形にするか届出でよいかを考えていきたい。授業公開の期間は、来年も一斉実施のほう望ましいと思っているが、前期と後期を隔年で実施して、いろいろな授業を参観できるよう

にしたい。

- ・兼任教員の参加については、今年度は説明や広報が不十分であった点を踏まえ、来年度はもう少し働きかけの機会を増やすほか、なるべく簡単に参加していただけるような手続きに変えていきたい。

○共通基礎学力テストについては、三宅教務委員長より以下の説明が行われた。

- ・本年度から外部に採点と集計を業務委託するため、マークシート方式に問題を変更した。各学科の平均点の推移を見ると、昨年が 67.8、今回は 67.9 で、マークシート方式に変えても結果として差異はなかった。
- ・学科ごとの平均点の差異で特筆すべき点は、看護科が高い点を保っている。これは、入試によってある程度入学者を絞っていることが表れている。医療秘書科と医療マネジメント科は、全体としてあまり変化がない。速記コンピュータ科、介護福祉科、くすり・調剤事務科、鍼灸医療科については、人数が少ないので傾向分析の意味はないと思われる。
- ・科目ごとの平均点の推移では、数学が 11.9 から 14.4 と大幅にアップしているが、これは学力が上がったわけではなく、選択肢から選ぶことで偶然の結果がプラスに働いたものと思われる。
- ・一番必要な基礎学力である国語と数学の得点分布を学科別で比較したが、例えば医療マネジメント科に比べて、医療秘書科のほうが点数の低いところにも分布していることから、指導の難しさに差が出ている。この点は、箱ひげ図からも伺える。
- ・鍼灸医療科は差が大きいので、国試の指導をするときに下位の方たちをどうするかというところが問題になってくるかと思う。看護科については入試を行っているので、平均以上のところに大多数が入っていることがわかった。
- ・クラス別の平均点と退学者データとの相関を行ってみた。退学者が少ないのでデータとしての意味はないと思うが、一応成績順に並べてチェックしていくと成績の下位のほうにたくさん分布していることがわかった。今後経年でデータを集積し、退学者数との相関などもやってみたい。
- ・基礎学力を上げて、就職試験のときにプラスになるよう各学科のカリキュラム作成などに生かしていただきたい。年度末までにどのように生かしたかを各学科あてに調査して、次年度以降に生かしていきたいと思っている。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(1) 共通基礎学力テストについて

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 共通基礎学力テストは、年に一回実施されるものか。基礎学力テストの目的は、学生の学力の診断が中心か。学生の一般常識を高めることは授業その他でやっているのか。 <input type="checkbox"/> 学生に対するフィードバックをしっかりとやれば、検定取得や学生自身の学力につながっていくと思う。	<input type="checkbox"/> 入学後すぐに、新入生に対して実施している。学生のレベルの経年変化も見ているが、それが主の目的ではない。大体の学力を把握して、指導に生かしていくことが主な目的である。
<input type="checkbox"/> 学科によって成績のばらつきがあるが、全体の底上げは難しいと思う。	<input type="checkbox"/> 共通基礎学力テストの問題は、中学卒業程度の国語、算数、社会、英語だが、大学でも入学前に基本的な科目を教えているところもある。検討事項にはなっている。

	<input type="checkbox"/> 基礎学力テストは、参考データとして毎年比較し、またクラスごとのばらつきなども見ながら、教科指導に役立てるというプロセスになっている。基礎学力という点では、最近は以前よりいい学生も大分入ってきている。
--	--

4. 平成 27 年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組状況報告について

○事務局高橋より資 2 の構成及び表中の「※3 中間点検」の記述経過について説明が行われた。

○保坂委員長より、資料 2 は事前送付されていることから、項目順の質疑応答で進める旨の説明が行われた。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(1) 重点目標

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 医療秘書科、医療マネジメント科の退学者数が多い背景として、学力差があることと学生数が多いことがあると思う。教員の定員を 1 名ふやすとか、何らかの人的支援を行うことも運営上の課題としてはあるのかなと思う。	<input type="checkbox"/> 人的支援は難しいところはあるが、担任一人の問題ではなく、学生相談コーナー、保健室等と連携しながら学校全体として取り組んでいる。
<input type="checkbox"/> 教員研修、授業公開は人数だけではなく、内容も非常に充実してきたと思うが、参加された先生から感想を聞かせてほしい。（保坂委員長）	<input type="checkbox"/> 授業参観では、意識的に学生に投げかけていって関心を引き付けるなど、それぞれ工夫をしていると思った。また、学生に対する講義が整然としていてわかりやすいという印象を持ったので、その辺は取り入れていきたい。 自分の授業は高橋先生に見ていただいたが、自分なりに今後の課題として授業内容の再構築を考えていた点についてきちんと指摘を受けたので、自信を持って改善していくことができると思った。
<input type="checkbox"/> 見てもらう側は、見に来ていただけることを意識して、その講義の内容について改めて検証して授業に臨むことができる。そういう点でも人に見てもらうことはよいことだと思う。 <input type="checkbox"/> 教員研修については、アクティブラーニングの研修を行ったり、授業公開を拡大したり、大変ご尽力されていることはすばらしいと思う。 <input type="checkbox"/> 学生アンケートを見ると、毎年、居眠りはしていないというのが低い数値であり、授業の進め方に関する質問では、見やすさ、わかりやすさなどに配慮して工夫しながら授業を進めているかという項目が低めになっている。研修の結果、この数	<input type="checkbox"/> ご意見として伺った。

値が 3.4 よりは上のほうにいくぐらいになってほしい	
-----------------------------	--

(2) 項目 2 : 学校運営

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> リクルートマーケティングパートナーズの関連だが、一応の結論は出ているのか。 <input type="checkbox"/> できれば次年度の募集に生かしたほうがよいと思う。再言語化セッションとは、どういう意味か。	<input type="checkbox"/> 学科の強み等については一次的なまとめはできているが、最終的なところは 12 月末ぐらいまでにまとめるように進めている。 <input type="checkbox"/> 募集広報的な点から、高校生、保護者の方、高校の教員向けにわかりやすく、もう一回提示しようという意味合いでの再言語化である。まずは内部で理念等の言語化について確認して、外への広報に向けてのプロセスを組んでいきたい。

(2) 項目 3 : 教育活動

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 看護科に class hour とあるが、成果はあらわれているか。 <input type="checkbox"/> class hour は、ほかの学科でもやられているのか。 <input type="checkbox"/> 先生方が個々の学生とのつながりを持つ時間はあるのか。	<input type="checkbox"/> class hour はホームルームのような形で、最終的に学年末に評価をしている。 <input type="checkbox"/> ほかの学科ではキャリアデザインという授業の中でやっていくケースもあるし、学科によっては授業としてやっているところもある。厚労省系の国家試験学科は科目の内容等も指定があるので、授業以外にやっていることが多い。学校も国家試験系学科と内容が二分しているので、年間の授業スケジュールにも違いが出たり、全体として一つのものという形は出しにくい状況にある。 <input type="checkbox"/> 例えば前期と後期に、全クラスの担任がお昼休みの 30 分を使って個別面談を行っている。私も学科長として今は 2 年生の面談をしているが、放課後の時間帯に一人ずつスケジュールを組んで、面談をしている。3 年生に関しては、放課後のある時間帯に国試対策として特定の教員が関わるような形になる。
<input type="checkbox"/> C S C の関連で、来年度の大学病院の正規採用をふやすためのものとあるが、これは正規採用をしている大学病院への就職をふやすという意図か、もしくは正規採用をしていない大学病院をこじ開けるような活動か。 <input type="checkbox"/> 内定辞退削減のため、病院側にインターンシップ開始時期を遅らせたり、休暇の増加等を要請するとあるが、受け入れ状況はどうか。	<input type="checkbox"/> 主には正職員採用を行っている大学病院への就職者数をふやしていくというところに主眼を置いて活動している。正職員採用は以前に比べると減ってきているので、採用枠があるかどうかを確認しながら、開拓も考えて活動していきたい。 <input type="checkbox"/> 昨年度に比べると、インターンシップの開始時期を少し遅らせることもできているし、休暇についても多く取ることを認めてくれる病院もふえつつある。今のところ、インターンシップの途中のリタイアはない。

<input type="checkbox"/> 検定取得目標数値の根拠は、前年実績に基づくのか、就職対応上の必要性なのか。 <input type="checkbox"/> これは学科長の考え方に任せているのか。	<input type="checkbox"/> 目標数値は学科運営計画で各学科長が示している。 <input type="checkbox"/> 資格の難易度的な部分も加味しなければならないところはあるが、一番難易度の高い診療報酬請求事務能力認定試験は全国平均をクリアすること、医療秘書検定は、3級は100%取得という目標を立てている。検定によって根拠は変わってくる。 <input type="checkbox"/> いろいろ現実的な問題があるので、現状では学科のほうで出してもらっている。
--	---

(3) 項目別5：学生支援

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 介護福祉科で8月に保護者会を実施して、本科生8名のうち5名の保護者が参加したとあるが、保護者会を実施した効果をどのように分析されているか。	<input type="checkbox"/> 国家試験になることを踏まえて、初めて保護者の方に集まっていただいた。やはり親御さんも不安を抱えていたようで、教員との交流ができてとてもよかったというご意見をいただいた。今後も進めていきたいと考えている。

(4) 項目別6：教育環境

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 防災関係について近隣との連携とあるが、近隣というのはどのあたりを想定しているのか。また、連携の内容はどのようなものか。 <input type="checkbox"/> 学校施設を災害時の避難場所にするのはよくあることだが、災害救助法で、学校が避難所になる場合は学校の職員がその対応に当たりなさいとなっている。高田馬場は駅周辺に避難所がなく、この学校は格好の場所となるが、ここにもし流れ込んできた場合、とても対応ができないという状況が発生すると思うので、避難の受け入れ等については条件をつけて提携を結ぶとか、近隣との連携、行政との対応については慎重に進めたほうがよい。	<input type="checkbox"/> 震災時の避難場所は学習院大学だが、区の防災担当のセクションと学習院での受け入れ時の問題等について確認している。戸塚第二小学校や新宿区の戸塚地域センターとの連携も確認はしているが、これらは新宿区の施設なので豊島区の学校の受け入れは難しい面もある。話し合いを継続して、お互いに困ったときには助け合えるように、具体的な策にまでつくっていきたいと思っている。

5. 平成28年度重点目標の中間点検報告について

○橋本校長より以下の説明が行われた。

- ・TPCの育成と強化については、リクルートの協力を得て、学科別の強み等を確認し、人材育成方針の再言語化を継続して行っている。
- ・退学防止については、現時点では15名で、全体的に見ると昨年よりかなり少ない。気になるのは、医療秘書科1年生の退学者7名のすべてがAO入試によるものということで、入学前に学びの目標を再確認するとか、何か手が打てればと考えている。
- ・3番目の教員研修、授業公開等については、先ほど詳しく教務委員会からあったので特に補足はない。

○保坂委員長より、この件は中間点検でもあるので、聞き置くだけにさせていただきたいとの発言があり、確認、了承された。

6. 平成 28 年度学校関係者評価報告案について

○最初に事務局高橋より、資料 5 に基づき平成 28 年度学校関係者評価報告案について以下の説明が行われた。

・資料 5 の左側には本日ご検討いただく基となる以下の 3 資料の要点を記述してある。

①平成 27 年度活動の自己評価報告書（点検大項目）

②平成 27 年度重点目標達成の自己評価

・右側「学校関係者会議の評価、意見」は平成 27 年度第 3 回委員会と今年度第 1 回委員会でいただいたご意見を議事録からまとめたもので、アンダーライン部分が提案と意見をいただいたところ、アンダーラインがないところは特にご意見がなかったところで、学校の報告をそのまま受けた形になっている。

・毎回の説明になるが、職業実践専門課程の認定校は文科省のガイドラインに示す全項目について、学校関係者評価委員会の評価を受けることになっており、従って全項目について左側の報告に対して右側の評価、意見を記述してある。

○保坂委員長より、学外公表する報告書に記述する内容を資料 5 の右側「学校関係者評価委員会の評価、意見及び提案」に前回までの議事録からまとめていただいたが、今回はこの記述に対して追加、訂正の意見を頂戴して報告書の最終まとめを行いたいとの説明の後、審議が行われた。

○委員からの意見と回答は次のとおり。

I 全体を通した文章表現他

・学校関係者評価において数値で評価する例がよくあるが、それは考えていないのか。（佐藤委員）

・自己点検がスタートした当初は、よくできている、少しできている、できていない、という評価の指標を用いていたが、現状は、基本的には文章で書く形で進めているので、学校関係者評価のほうも最初からその形をお願いしている。（事務局高橋）

・P D C Aという言葉が出てくるが、外部の方が読んでわかるような注釈をつけてはどうか。（佐藤委員）

・文中の略称、英語表記には注記をつける。（事務局高橋）

II 重点目標と達成するための計画・方法について 修正意見なし

III 評価基準に基づく各評価項目について

1. 教育理念・目的・育成人材像

・各学科における三つのポリシーの再確認もしっかりと進めてほしいと書かれているが、具体的な進め方も明らかにしてほしいということを追加したい。（保坂委員長）

2. 学校運営 修正意見なし

3. 教育活動 修正意見なし

4. 学修成果

・職業実践教育の効果については卒業生や就職先等の評価を確認するための調査も望まれる、とあるが、実際に具体的な行動なり考え方なりはあるのか。（保坂委員長）

・個別に、就職先の病院や施設に挨拶に行くとか、次年度の募集のことで訪問する際には、卒業生の状

況や今後その職業につくために求められる能力が変化してきているか等、ヒアリングを兼ねて行っている。それを広くアンケートのような形で行う計画はないが、今後検討していきたいと思う。(宮下事務局長)

5. 学生支援 修正意見なし

6. 教育環境 修正意見なし

・防災・安全管理は、先ほどいただいた慎重に進めるというご意見を反映させる。(事務局高橋)

・学内における安全管理体制は、共通のマニュアルなどの整理が求められるとあるが、「求められる」という表現は第三者的な感じがする。「整理を進めてほしい」にしたほうがよいかもしい。(保坂委員長)

7. 学生の募集と受入れ 修正意見なし

8. 財務 修正意見なし

9. 法令などの遵守 修正意見なし

10. 社会貢献・地域貢献 修正意見なし

○保坂委員長より、以上で報告書の審議を終了した。本日も指摘をいただいた部分は文言を修正し、それをもって最終的な報告書を作成し、年内に校長に提出する予定。修正した報告書は提出前に事務局から委員の皆様にお送りするが、最終確認は委員長に一任してほしい旨の発言があり、確認、了承された。

○最後に、保坂委員長の指名順に各委員の総評が行われた。

○この委員会を通じて、教職員の皆様が良い学校を目指して常に頑張っていることを感じている。また、保護者として、子供を通わせるのに安心できる学校であることをいつも感じている。今日ご説明をいただいた改善を進めて、より良い学校を目指してほしい。

○今年度は前年度に比べて、募集状況も就職状況もよく、これは教職員の皆様の尽力の成果であり、嬉しく思っている。重点目標の項目別に見ても、現段階では退学者数は減少し、教員研修は拡大している。今後も継続して学生の指導と研修に当たってほしい。

○専門学校を取り巻く環境は年によって大きく変わることから、臨機応変な対応をお願いしたい。

○教職員の皆様は大変真面目に取り組んでいる。インターネットで他校の学校関係者評価委員会の情報を見ると淡泊なものが多く、反対に、今日の委員会の報告、説明や議論から見ても、本校はとても密度が濃いのと思っている。そういう意味で、本校においては非常に真面目に教職員がこの活動に取り組んでいると評価している。

○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると思う。既に取組まれてはいるが、オープンキャンパスにおいては退学者を限りなくゼロにすることを想定した上でのコミュニケーションの工夫が大事だと思う。

○就職については、資格に対する病院の考え方も変わり、資格を持っていれば正職員になれる時代ではなくなってきている。その点で、付加価値をプラスした教育や医師事務作業補助者などの新しい資格、また、がん登録なども含めたカリキュラム編成に他校に先駆けて取り組んでいることは評価できる。その努力を今後も是非続けてほしい。

○本校は学校関係者評価委員会の活動に真面目に真剣に取り組んでいると評価している。例えば、エビデンスを求めればすぐ提出されるということは、それだけのことをきちんと行っていることの証明だと思う。

- また、前回委員会において、学生のコミュニケーション能力の育成に向けた授業の中での先生方の様々な取り組みの説明を受け、とても真剣に取り組んでいる印象を持ったが、今後も情報交換を一層進めて、学校全体が良くなっていくように努力を続けてほしい。
- 高等教育機関においては、広報・教育・就職がバランスよく業務としてまわるのが基本と思うが、中でも教育機関として教育の中身が充実し、評価されているという前提があって他の業務が生きてくると考えている。
- その意味で、本校にはその前提については一定の評価がすでにあると思うので、それをどう他の業務に生かしてしていくかが重要であり、そのしかけが今年新たに設けられた各協議会であると考えられる。まずは、意識の部分から広報・就職についてより積極的に関与し、学校全体として取り組んでいく意識改革が必要と思う。

以上